



Doctor inseminated his sperm to her mother's womb without consent.

ドナーは主治医だった

Interviewee

Ms. Eve Wiley

Q. 両親から、精子ドナーから生まれたことを知らされていませんか？ そのことについてどう感じていましたか？

1985年頃、両親が不妊に悩んでいたとき、医師から精子ドナーを使うことを勧められた。ドナーを選び、医師はそれを秘密にするように勧め、当時は匿名が普通だったので、匿名でプロセスを進めた。

7歳の時に父が亡くなった。その頃、両親の実子である妹は、家族に心臓病の病歴があったため、ある医療検査を受けなければならなくなった。それをきっかけに、母親は、娘のドナーの健康歴について関心を持つようになった。彼女はクライオバンクに情報を求め、ドナーについてより多くの情報を得る方法についてサポートグループに支援を求めた。

16歳の時、母親のメールを整理していたら、クライオバンクに送られた「精子提供で生まれた子供の情報」というメールを見つけた。そのメールの一番下に自分の生年月日がかかれていて、それで自分がDC(donor conception)で生まれたことを知った。当時、自分はDCの複雑な仕組みを理解していなかった。何年も前に父親を亡くしたのに、まだ父親がいるような気がして、とてもうれしかった。この人とおとぎ話のような関係を築きたいと考えていた。「ダグ(Doug)が私のパパ

ではないことは知っているわ」と母親に打ち明けた。母親はショックを受けた。それでも、自分と母親はすぐに行動的な考えを持ち、ドナーを探すことにした。

自分は家族の誰とも似ていないため、成長過程で遺伝的なミラーリングを行うことができなかった。また、趣味も違うので、友達からは「養子に違いない」とよく冗談で言われた。ずっと、何か秘密があることは分かっていたが、それが何なのかは分からなかった。このことがわかった後、全てに合点がいった。

父親であるダグのことを今でも「パパ」と呼んでいる。ダグが亡くなった後も、母親はダグの思い出を大切にしている。

Q. ドナーに会うまでの間、ドナーについてどんな人か空想を巡らせたりしていましたか？

父親を早くに亡くしているため、父親がいたことを実感することがほとんどない。ドナーが自分のことを知りたがっていると素朴に思い、この関係の可能性にワクワクしたりしていた。

16歳になると、誰もが「自分探し」をするようになる。自分の場合、実の父親がわからないということが、この感覚をより強めていた。自分は、DCの複雑さを理解しておらず、すぐに父親を見つけることができると思い込んでいたが、それを阻まれ、現行の制度に苛立ちを覚えた。手書きの手紙を何通も書き、ドナーと連絡をとろうとした。そして、ネット上の掲示板やフォーラムで、幸せな再会は不可能かもしれないということを知った。



Q. Donor106に会ったときのことを教えてください。嬉しかったですか？特別な繋がりを感じましたか？それとも、違和感がありましたか？

カリフォルニア・クライオバンクがドナー106（「スティーブ」）を見つけるまで、約1年かかった。手紙を用意して、見つかったら転送してくれるように頼んでいた。当時、オースティンの大学で学んでいた。自分のところにスティーブが訪ねてきてくれた。みんな（クライオバンクや彼女の母親など）は彼がドナーだと信じていたので、自分も何の疑問も持たなかった。

スティーブはとてもオープンで、受け入れてくれる人だったので、とても付き合いやすかった。二人の関係が打ち解けたものになるには少し時間がかかったが、最初からつながりがあり、無理やりという感じはなかった。それは、2人の性格が似ていたからかもしれない。現在もスティーブと連絡を取り合っている。

Q. DNA 検査がなかったら、わからないままでしたか？

答えは、イエスでもありノーでもある。

おそらく自分の医療プロフィールが、将来のある時点で事実を浮き彫りすることになったはずだ。そうであれば、スティーブが実の父親ではないことはいずれ明らかになっただろう。

しかし、彼がドナーだと聞かされた後では、DNA鑑定をすることは思いつかなかっただろう。自分は最初からそれを真実として受け入れていた。

せっかくスティーブと知り合ったのに捨てられることを恐れていたのに、彼に真実を伝えるのはすごく抵抗があった。事実を知った彼は泣き出してしまった。

彼をなだめすかし、なんとかすべてを説明した。彼は「これで少しは変わるけど、全部じゃない」と言っていた。二人は今でも仲が良い。

Q. 母親はこのことについてどのように感じていますか？主治医の精子が使われていたことがわかった後、家族の雰囲気は変わりましたか？

自分がこのことを知るまで、母親は娘からドナーを知る権利を奪ってしまったことに苦しんでいた。母親は、病歴を気にしながらも、罪悪感も感じていた。不妊症のこと、そしてそれが結婚生活に与える影響について、未解決の感情を抱いていた。スティーブが見つかったことで、そのようなやり場のない気持ちが和らいた。彼女は、すべてがうまくいったように感じ、安定した状態になっていた。

母親は、娘のドナーに関する偽装を知ったとき、ショックを受けた。医師について「彼は絶対にそんなことをしない」「私たちは彼のことをずっと知っている」「彼は私たちのコミュニティでも尊敬されている」と言い、処理しきれなかった。娘の存在に感謝しながらも、妊娠したことに動揺するといった、相反する感情を抱くことがトラウマになっていた。施術の現実を考えると、母親は自分が医学的にレイプされたような気がすると言っている。医師は、母親が隣の部屋にいる間に、興奮した状態で精子を採取したのだ。母親は、欺瞞が発覚するまで、この医師の患者だった。そのことがわかったとき、娘の自分は28、29歳だった。



Q. なぜ医師は自分の精子を使ったのでしょうか？ その動機や背景についてどう考えますか？

さまざまなことが考えられる。例えば、

- 1) 医師によれば、106番ドナーは「妊娠させる能力がない」とのことだ。しかし、実際にスティーブの精子を使って、イブと同年代の14人の子供が誕生しているのだから、そんなことはないだろう。
- 2) 医師が医学生だったころの古いバイアルを使ったと言っている。当時はクリニックが運営されていなかったのも、これも嘘。ありえないことだ。
- 3) お金や「成功したい」というエゴに駆られた可能性がある。
- 4) 同期の医師たちの間で、誰が一番多く赤ちゃんを産ませるか、という賭けや競争があるという噂を聞いたことがあるので、それが動機の一つだった可能性がある。

その医師(Dr. McMorries)は教会の中心的人物。彼は優生学に興味があるのではと推測している。医者である自分の精子に価値があると思っているのだろう。「神が授けられない子供を、私が授けることができる」と信じていたのだろう。このナルシズムが、彼の行動に重要な役割を果たしている。また、彼はケチで、おそらく(精子バンクに支払うための)お金を節約しようとしたのだろう。

ドクターの信仰が診療に影響する。モットーは「キリスト教の強固な価値観」を実現することだそう。セックスや不倫と、他の男の子供を身ごもることを分けて考えるのは、ある種の宗教的な物語と結びついているのだろう。

彼は非常に保守的である。自分が UT

オースチンの大学に進学することを知ると、母親に「リベラルな考え方に洗脳される可能性がある」と説教し、部屋を出て行ったという。彼が自分の精子ドナーであることが発覚する前のことだ。

医師は自分のしたことについて、何の反省も後悔も表明していない。医師との間のコミュニケーションは、弁護士のアドバイス通り、すべて文書で行われている。彼は、「私はあなたの両親に贈り物をした」「私はあなたの父親ではない、ただのドナーだ」と言っている。彼は、自分の精子は他のものより「優れている」、だから自分の子供は賢いのだと言う。しかし、彼がドナーになった子供の半分は現に高校を中退しているので、彼はこの物語を当初より強くは押し付けないようになった。

彼に対する批判は、「自分に対して匿名ではいけない」ということ。もし、彼がやったことに非倫理的なことがないのなら、なぜそれを隠すのか。彼は、自分のしていることが間違っていると知っていたのだ。

Q. 批判すべき点は何ですか？ 精子提供そのものは、出自を知る権利が保障されるなら、容認しますか？

- 1) ドナーから生まれた人の最善の利益になるよう行動するために、業界がやるべきことはたくさんあるはずだ。子供たちが中心でなければならない。自分は、オープンな養子縁組に賛成で、誰もが家族を作ることができるように、ドナーと両親の両方を教育するという考えに賛成だ。
- 2) 自分の遺伝的文化や祖先から切り離されたことを是正するためのスペースが必要だ。自分は、レシピエントの親に会い、自分の遺伝子の残りの50%を知



りたいという子供の気持ちを尊重する必要があることを伝える。この業界が、非常に透明性の高いものになることを支持する。

- 3) 一人のドナーから生まれる子供の数を厳しく制限する必要がある。これは、ドナーから生まれた人同士の近親相姦を防ぐために重要なこと。
- 4) 医療技術を管理する方法をアップデートする必要がある。アメリカでは、医師がやりたいことをやっているだけ。例えば、デジタル記録のない手書きのメモを残したいというなら、それはそれでいい。悪質な業者が悪事を働かないようにするためのチェックポイントがほとんどない。
- 5) ARTが女性の身体に与える影響について、より多くの研究とデータが必要。特に卵子提供の場合、ドナーの最善の利益を中心に考えない、利益だけを追求する輩が存在する。1980年代の改正により、連邦政府の資金援助が認められないため、この業界は民間資金で運営されている。
- 6) 精子ドナーから提供された情報(健康、医療、教育情報)の確認がなされていない。提供される情報の多くは不完全だ。ドナーがまだ18歳の場合、質問の答えを知らなかったり、嘘をついたりすることがよくある。ドナーが開示した内容を確認する仕組みがない。
- 7) DCで生まれたことを子供に伝える方法について、レシピエントである親はもっと教育を受けるべき。DNA検査により匿名性は失われているが、伝えることが当たり前になるような教育があれば、親の不安を解消することができる。
- 8) ソーシャルメディアのグループが、ドナー精子を求める倫理観を侵食している。ドナー精子を求めるための

Facebookグループ(クリニックを完全にパスする)が増えてきている。マイノリティはクリニックを通さない道を選ぶ傾向がある。倫理的、道徳的に正しいことを行いながら、経済的な観点から皆のためにスペースを確保するにはどうしたらいいのだろうか？

- 9) 政府等の公的機関で情報を管理するという話がよくあるが、これはLGBTQコミュニティや不妊症の人々のリストを政府に渡すようなものだという事実に敏感でなければならない。これは良いアイデアとは思えないし、反発があるのも理解できる。ドナーの登録は、そのギャップを埋めることができるかもしれない。

Q.「遺伝的つながり」についてどのように考えますか。それは、宿命のように切り離せないものでしょうか。育ての親の存在とどのように異なりますか？

遺伝子のつながりは自分にとってものすごく大切なものだ(incredibly important)。遺伝的父親と関係を築けないことがわかったとき、とてもがっかりした。この人のことを知りたいと強く思っていたから。

ある意味で、自分はより大きな善のために、ドナーと関係を築く可能性を犠牲にしなければならなかったと感じている。発見したドナーきょうだいたちとは、大切な関係を築いている。

Q. 全米で、主治医の精子が使われていたケースは、何件くらい報告されていますか？

67人の医師が、このような行為に関わっていることを特定した。また、多くの秘密保持契約が結ばれているのを知っている。同じような境遇にある人たちから相談があり、利用可能な選択肢についてア



ドバイスを求められる。例えば、法律を変えるためのロビー活動、調停、非開示、メディアへの告発、訴訟、何もない、など。それは、とても個人的な決断だ。

1980年代に行われた自己申告による調査では、医師の2%がこのように従事していたことが判明している。それは、確実に広まっていた。

Q. その主治医から生まれた人は何人いますか？ まだまだ増えそうですか？ これらの人たちと連絡を取り合ったり、連帯していますか？

医師の精子から生まれた13人のうち、3人は彼の妻との間にできた子供。残りの10人はドナーきょうだいだ。テキサスではDNA検査に不信感を持つ人が多いので、実際にはもっと多いかもしれない。ドナーきょうだいの中には、自分の健康状態を知るためにDNA検査を受け、その後見つけた人が何人かいる、Facebookで見つけた人が3人、1人がニュースで自分を見て、その後、医師(Dr. McMorries)の写真を見て知った、クリスマスに遊び半分で検査を受けた人など、さまざまな人がいる。また、あるきょうだいとの間には緊張があるが、きょうだいのうち、3人とは仲が良い。

医師のもとで働いていた看護師たちと話をした。その中の一人は、不妊を公表したくないという母親との契約を守りたいという気持ちと、自分を助けたいという気持ちの間で板挟みになっているのがわかった。彼女は自分にいくつかの「手がかり」を与えた。それを解明するのは大変な作業だった。

自分の話を公にすることで、まだ自分がグループの一員であることを知らない人もいるのに、自分がグループのために選択をしなければならないような気がし

た。何人かのドナーきょうだいは、医師が提供から生まれた人を知りたいという気持ちを持つのを自分が妨げていると考え、腹を立てていた。医師の妻も、「夫の時間を他の女性に取られるのは嫌だ」と自分に腹を立てていた。ドナーきょうだいの一人は、命を与えてくれたマクモリス博士にとっても感謝しており、自分の活動を失礼だと感じているようだ。

感じ方に男女差がすごくある。息子たちはあまり気にしないが、娘たちは気になるようだ。これは、彼女らの多くが、事実を知る前に主治医として診てもらっていたからかもしれない。医師から骨盤の検査などを受けていた。

Q. ロビー活動の成果について教えてください。法律が導入された州は？ 現在議論が進んでいる州は？

2019年に活動を始めたとき、弁護士は、法律がなく、医師賠償責任の時効はわずか10年で、“no discovery rule”が適用されるため、民事も刑事もないと助言した。医師会には、時効はないので医師免許を剥奪するオプションがある。医師はその後、医師免許を剥奪しようとする自分の試みを訴えるため、接近禁止命令と法令を申請している。

その結果、法律を変えようと決心した。テキサスの上院議員に会い、性的暴行の刑法の中に条文を入れさせた。他の州でも法律が制定され、フロリダ、コロラド、アーカンソー、アリゾナ、ユタ、ケンタッキーで被害者と関わった。各州の法律はかなり違う。連邦法を成立させるには、多くのモデルが必要で、7月にそのための申請書が通過した。とても時間がかかる作業だ。



Q. 大変だったことは？ サポートは得られましたか？

最初の頃はまだ自分のストーリーのトラウマと闘っていた。何度もストーリーを繰り返すことは難しかったが、自分のストーリーに目的を見出し、自分のためのプラットフォームを作ると、それは容易になった。

COVIDが発生したことで、議員に会うために全国を飛び回る必要はなくなった。Zoomに切り替えたから。個人として活動する方が、NPOとして活動するよりもずっと楽だと思った。その方が、自分の意図が金儲けではなく、法律の抜け穴を塞ぐことであることが明確になる。技術の進歩に法律が遅れていることに、議員たちは気づいていない。

ロー対ウェイド裁判の崩壊後、胚の破壊を禁止する法律が導入される危険性がある。現在、人々は残った胚を提供するか破壊するかを選択することができる。このような禁止法は、自分の遺伝子をコントロールできなくなり、望まれない実子などが生まれる可能性がある。また、人身売買につながる可能性もある。

不妊治療の過失に関する記録はない。データは訴訟から引っ張ってきたものだけ。専門的なガイドラインはあるが、それは基準ではないし、報告もほとんどない。

多くの議員は、不妊治療業界にこれほどまでに規制がないことを知らない。デリケートな話題なので、みんなびっくりしている。関連する判例がないため、同じような法的状況に陥っている(「子供を持つことが傷害であるとは言えない」)。法律を変えるには長い道のりが必要なので、多くの人がお金をもらって秘密保持契約書にサインすることを選ぶ。

Q. その他

自分の仕事は、トラウマセラピストで、主にDVや性的虐待の被害者である子どもたちと接している。息子が一時期病気になり、セラピストとしての仕事を休まざるを得なくなった。自分の活動は「無報酬の仕事」だ。

現在、本の執筆を終えたところ。DCの領域で意識を高め続けたいと考えている。業界が責任を負うことを望んでいる。また、共に家族を築く方法について人々が決断することを支援したいと考えている。不妊症の割合は増えているが、目的に沿った形で業界を改善する必要がある。

(2022年9月)



Ms. Eve Wiley [Link](#)

精子ドナーから生まれる。18歳の時にドナー(Donor 106)に会うが、その後、DNA検査で、実際には主治医がドナーだとわかる。不法行為に対する法律の成立に向けてロビー活動をしている。2019年には、母親とともにテキサス州オースティンで開かれた上院の刑事司法委員会に出席。20以上の立法機関を訪問し、法案の成立を働きかけてきた。専門カウンセラーの資格を持ち、セラピストとしての活動もしている。

メディア：

Woman on quest to find sperm donor father finds shocking truth about her conception

Eve Wiley Texas Woman Fighting to Make Fertility Fraud a Crime (insider.com)

Dallas woman advocates expanding fertility fraud law | wfaa.com

ABC's '20/20' features Dallas woman who found out her mother's fertility doctor is her father (dallasnews.com)

BBC WORLD OUTLOOK PODCAST- THE SHOCKING TRUTH ABOUT MY THREE DADS January 5, 2022 | Podcasts

IVF bombshell: Dallas woman learns her biological father is mom's fertility doctor | wfaa.com